

乳児院、児童養護施設における食物アレルギー児 の在籍状況および給食対応の実態 ガイドライ ン・マニュアルの有無別の比較

出典	日本公衆衛生雑誌 2019;66(3):138-150 (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2019287852/)
著者	森久栄 他
調査地域	全国
調査時期	2016年8月～9月
調査対象	全乳児院 134 施設 (0～5 歳) 全児童養護施設 601 施設 (1 歳～大学生)
依頼数	735 施設
有効回答数 または回収率	53.6% (394 施設) → 有病率は 392 施設 (14,725 人) で集計
診断方法	施設職員の申告 (医師の診断書なしの児童 26.4%)
有症率	3.31% (乳児院 4.30%, 児童養護施設 3.11%) アナフィラキシー は 0.33% (乳児院 0.48%, 児童養護施設 0.29%)
調査概要	全国の乳児院・児童養護施設の乳幼児・児童を対象に食物アレルギー児の在籍状況と給食対応の実態を調査した論文。乳児院の方が年齢の高い児童養護施設よりも有病率が高かった。